

観光業

業況、売上、採算

今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲82.3で、前年同期(2019.10～12)と比べ79.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

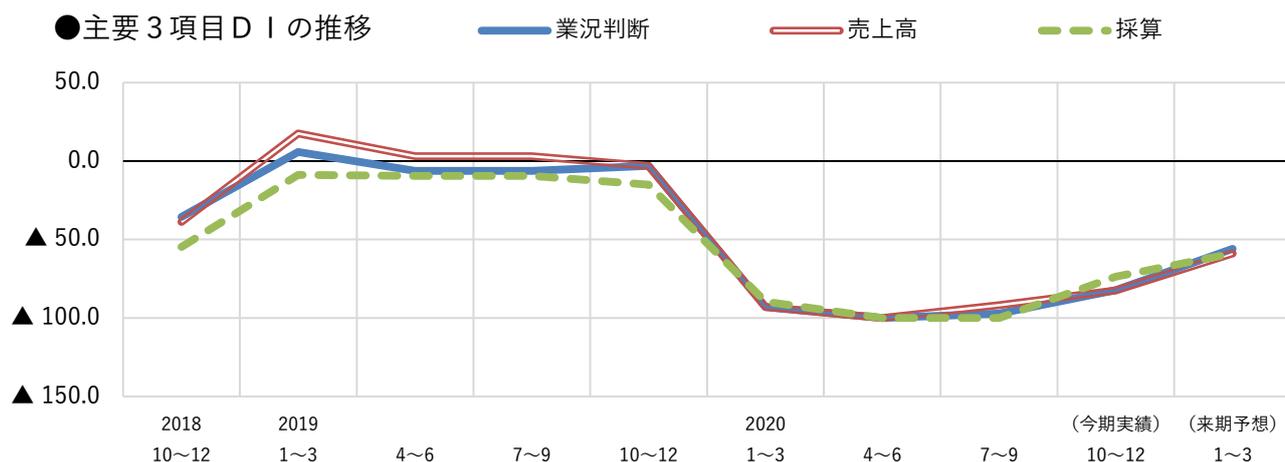
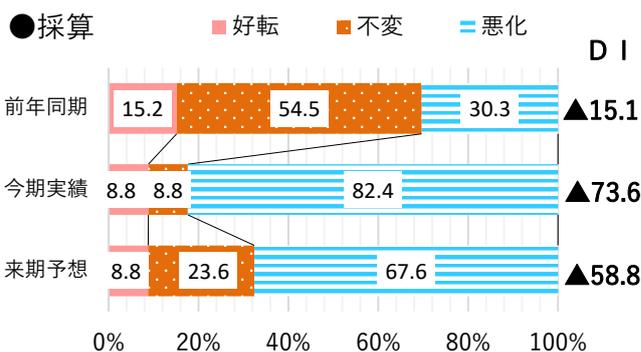
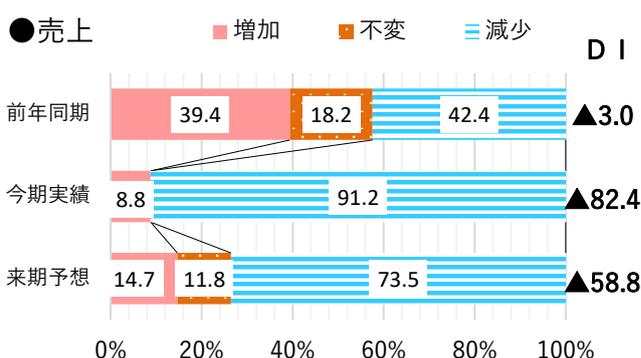
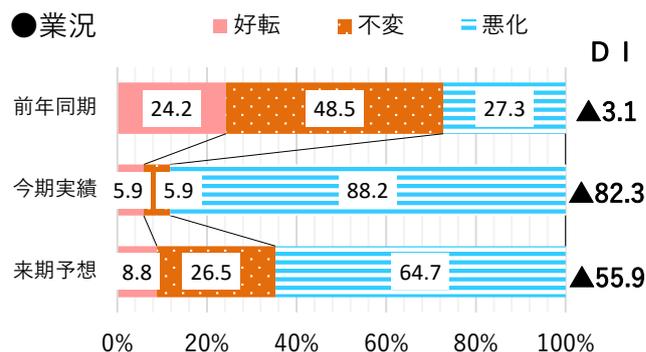
来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲82.4で、前年同期と比べ79.4ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲73.6で、前年同期と比べ58.5ポイント低下し、大幅に悪化しました。

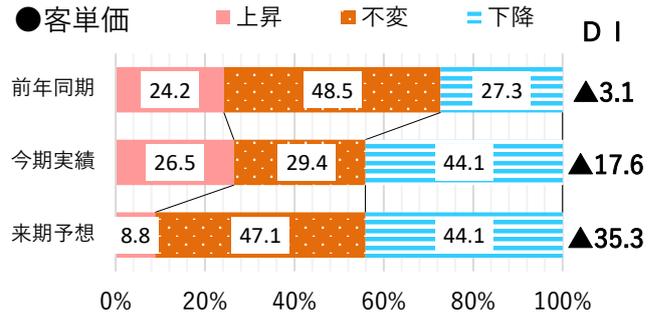
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

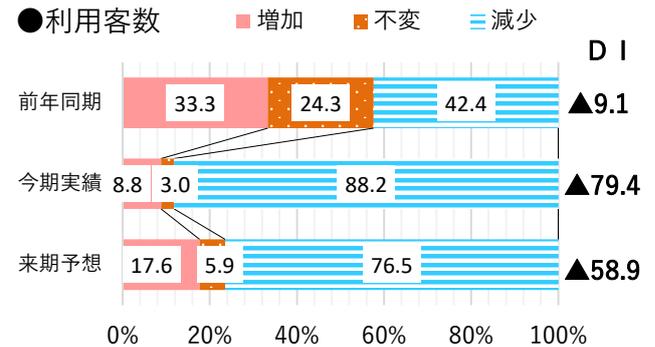
今期の客単価DIは▲17.6で、前年同期と比べ14.5ポイント低下しました。

来期は、客単価の下降傾向が続くと予想しています。



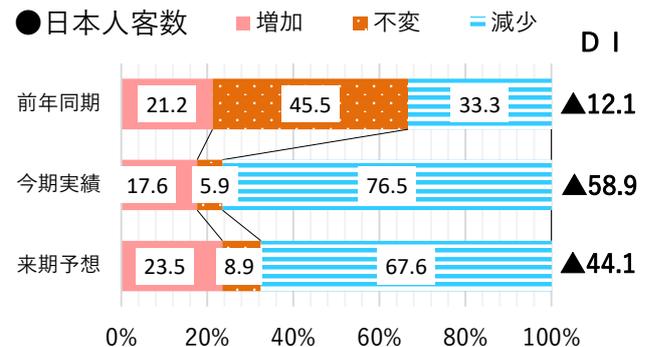
今期の利用客数DIは▲79.4で、前年同期と比べ70.3ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



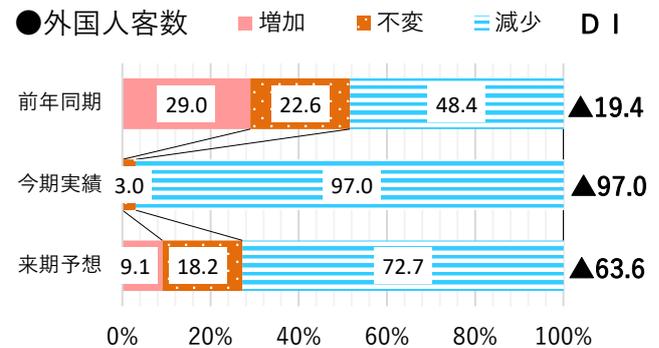
今期の日本人客数DIは▲58.9で、前年同期と比べ46.8ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、日本人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲97.0で、前年同期と比べ77.6ポイント低下し、大幅に減少しました。

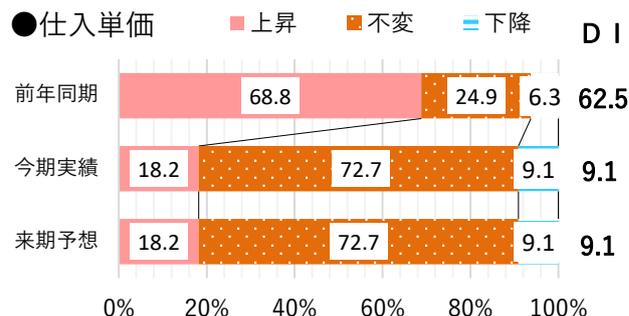
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは9.1で、前年同期と比べ53.4ポイント低下し、大幅に下降しました。

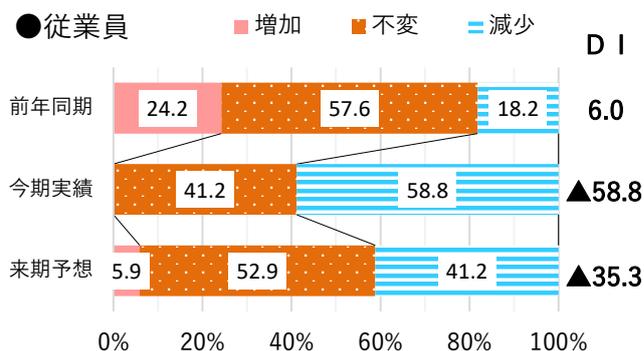
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲58.8で、前年同期と比べ64.8ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は26.5%、適正であると回答した企業の割合は55.9%、不足していると回答した企業の割合は17.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答で、観光業全体の29.4%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	4
	適正	9
	不足	1
減少した	過剰	5
	適正	10
	不足	5

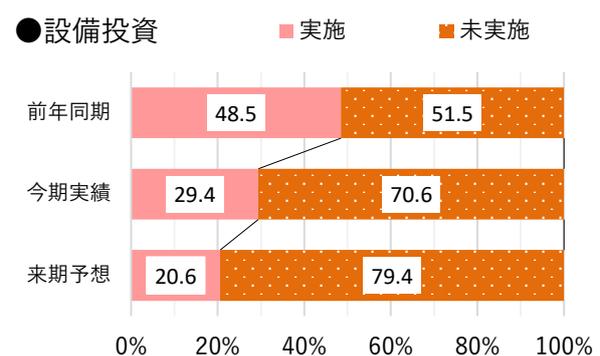
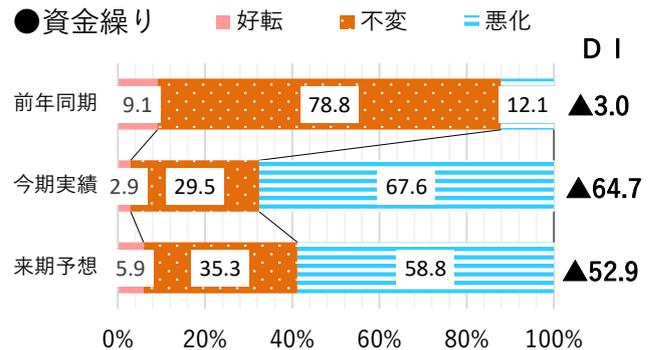
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲64.7で、前年同期と比べ61.7ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は29.4%で、前年同期と比べて19.1%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は20.6%で、減少を予想しています。

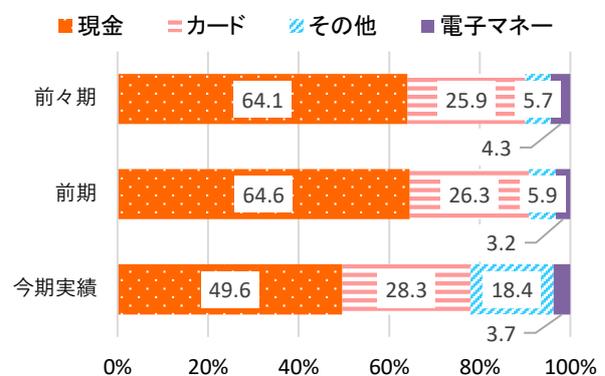


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で49.6%、2位がカードで28.3%、3位がその他で18.4%、4位が電子マネーで3.7%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToトラベル地域共通クーポン券、掛売り、旅行代理店からの銀行振込、ポイントの利用、ギフト券、割引券です。

●今期利用客の決済方法(%)

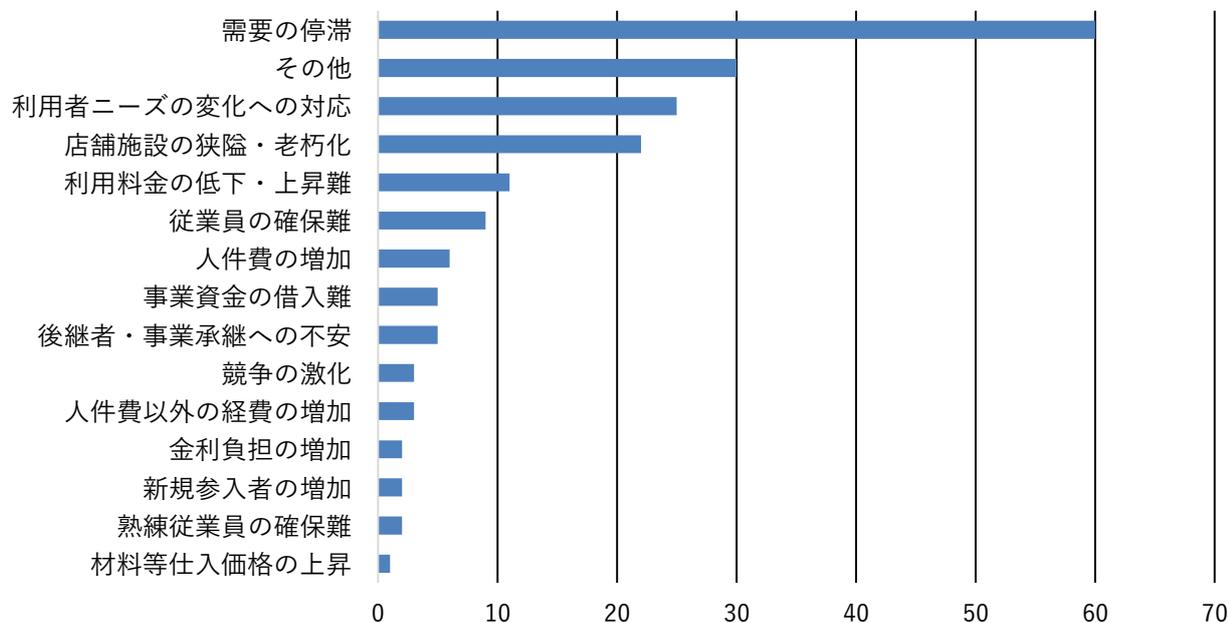


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は66.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- G o T o キャンペーンによって国内客が増加し、業況が好転した。リピーターの利用も多く、顧客との信頼関係や、コロナ禍において市街地から離れた場所に立地している安心感が影響したと思う。(ホテル)
- 利用客に占めるインバウンドの割合は約30%なので、国内客の回復に期待するが、G o T o キャンペーンが停止したため、年末は厳しい状況である。(ホテル)
- G o T o キャンペーン等の利用で日本人客数が増加したが、新型コロナウイルスの第3波によって再び減少傾向にある。(ホテル)
- G o T o キャンペーンにより、10月の昨年同月比客室稼働率は70%まで回復したが、11~12月は鈍化している。(ホテル)
- 企業の旅行や修学旅行の予約のキャンセルや、仕入価格の高騰により業況が悪化した。(ホテル)
- インバウンドの利用が減少した。(ホテル)
- G o T o キャンペーンや新型コロナウイルス感染状況の変化によって予約状況の変動があったが、全体として売上は減少し、仕入価格が上昇した。人員配置に悩まされた。(コテージ・ペンション)
- G o T o キャンペーンにより売上が増加した。(コテージ・ペンション)
- 新型コロナウイルスによる観光客の減少が続いている。前期、前々期比で国内客は回復しつつあるが、外国人客がゼロなので、売上が減少しており、業況の悪化は甚大である。低利の融資で資金を調達できたので、現状の資金繰りは何とかなっているが、先行きは不透明のままである。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で低迷していた物販事業の対前年比売上は、10月が110%、11月が90%まで回復した。国内客による購買が中心だった。(土産品)
- インバウンドの来店はほぼ無かった。11月から新型コロナウイルスの感染が拡大したことにより、回復しかけていた観光客は減少した。(土産品)
- 10月は道内の中学生、高校生が修学旅行で小樽に来ていた。(土産品)
- G o T o キャンペーンによって、売上はやや回復した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの終息まで厳しい状況が続く。(土産品)

- 新型コロナウイルスにより、客数が減少した。（土産品）
- 新型コロナウイルスの影響が大きい。（土産品）
- 新型コロナウイルス第3波のため、11月の下旬から状況が悪化した。GoToキャンペーンによって売上と客単価が大幅に上昇したが、12月以降は自粛傾向が強まり、人出が減った。金券による決済が中心だったため、現金はほとんどない状況である。（飲食店）
- 10、11月はGoToキャンペーンにより業況が好転したが、12月は新型コロナウイルスの感染拡大により再度悪化した。（飲食店）
- 団体客の利用や会食が全てキャンセルとなり、経営難に陥っている。（飲食店）
- 新型コロナウイルスにより、観光客が減少した。（飲食店）
- インバウンドの利用が無く、GoToキャンペーンが停止したため、全体的に売上が低迷している。道外企業は出張を自粛しており、毎日利用があるユーザーも利用回数を減らしている。（レンタカー）
- 客数は対前期比で約11%の減少だが、対前年同期比では約40%減少しており、コロナ禍の影響が甚大である。（水運業）
- 新型コロナウイルスにより、観光船、駐車場ともに利用客数は減少している。（船舶賃渡業）
- 新型コロナウイルスにより、国内外の旅行客の減少が続いている。（娯楽業）
- 冬期のため動きが少なかった。（娯楽業）

[来期の業況について]

- 寒冷地での新型コロナウイルスの感染拡大傾向がメディアで指摘されているため、道外客の減少が予想される。外国人客の回復は見込めず、イベントの中止も予想されるため、業況は厳しいだろう。（ホテル）
- GoToキャンペーンが1月末までの予定のため、新規の予約が無い状況である。2月以降の実施が決まれば、対前年同期比60%程度の売上は見込めるかもしれない。（ホテル）
- 助成金や補助金による支援はいつまで続くのか、不安を感じている。新型コロナウイルスが収束しなければ、業況回復の目処は立たない。（ホテル）
- 新型コロナウイルスにより、見通しが立たない。昨年同期比の売上は大幅な減少を見込む。（ホテル）
- 11月後半からキャンセルが増加しており、業況は悪化すると思われる。（ホテル）
- インバウンドの減少が続くと思われる。（ホテル）
- GoToキャンペーンの停止、新型コロナウイルスの感染拡大、インバウンドの減少による売上の減少を見込む。（コテージ・ペンション）
- 業況は新型コロナウイルスの動向に左右される。（コテージ・ペンション）
- 本来であれば外国人客の増加が期待される時期であるが、さっぽろ雪まつり等各種イベントが中止、縮小されるため、日本人客さえ期待できない。ネット販売等の強化で、少しでも売上を増やしたい。9月から半年ほど経営不振が続くと見積もっており、金融機関と相談し、資金を厚めに調達している。（土産品）
- さっぽろ雪まつりなど、各種イベントの中止により売上が減少すると思われる。（土産品）
- 現状が劇的に回復する見込みが無いため、業況は変わらないだろう。（土産品）
- 新型コロナウイルスのワクチン開発に期待する。（土産品）
- 客数の減少が続き、売上が減少すると思われる。（土産品）
- 新型コロナウイルスの状況は改善していると思われるが、周辺の店舗の休業が増加している状況で、いつまで持ちこたえられるか不安である。資金力のない企業にとって厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息に期待が持てなければ、状況は変化しないと思われる。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの終息と観光客数の回復まで、厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）
- コロナ禍の終息に向けて、国の施策や補助に期待する。（飲食店）
- インバウンドが増加し、外出自粛が緩和されなければ、来期の売上も減少すると思われる。（レンタカー）
- 閑散期であり、GoToキャンペーンが停止されたことから、業況は相当悪化すると思われる。（水産業）
- 好転が見込まれるが、状況の変化に対応できるか不安である。（船舶賃渡業）
- 冬期間のスキー客による利用が見込まれるため、今期の業況を維持できるとと思われる。（娯楽業）
- 新型コロナウイルスの影響が不透明の為、判断は難しい。（娯楽業）